

校門の桜の木々も薄桃色の花をほころばせ始め、風や光さえも優しく感じられる季節となりました。プランターの花々も、新しい季節の訪れと今日の門出を喜び、お祝いしてくれているようです。

このような佳き日に保護者の皆様のご出席をいただき、柳本小学校第113回卒業証書授与式を挙げていきますことを心より感謝申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与された三十七名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

先ほど卒業証書を受け取る皆さんの真剣な眼差し、最上級生として柳本小学校を引っ張ってきたという自信に満ちた堂々たる姿が、私はとてもうれしく誇りに感じています。

今、皆さんが手にした卒業証書は、皆さんの6年間の努力とともに、これまで温かく見守ってくださったご家族や地域の方々、そして教え導き、一緒に歩んできた先生方の皆さんに対する「愛情の結晶」であることを決して忘れないでください。そして何より、卒業証書には皆さんがこの6年間の学校生活で学んだことや培った全てのことが込められています。ぜひ一生の宝物として大切にしてください。

皆さんはこの柳本小学校で、友達と学び合い、認め合い、高め合い、一人一人が素晴らしい力をつけながら、学校教育目標の「やる気を出す子」「仲間を大切にする子」「元気な子」「やなぎっ子」を目指して努力してきました。特に6年生になってからは学校のリーダーとして活躍してくれました。

新入生のお世話、運動会や縦割り掃除、委員会活動やクラブ活動、地域のためのボランティアなど、様々な場面で、下級生をリードする、優しく頼もしい最上級生でした。

皆さんが示してくれた最上級生としてのあり方を下級生がしっかりと引き継いでくれることと信じています。

振り返ると昨年の九月・十月・十一月には感染者は極端に減少し、これできっとコロナは収束すると誰もが信じたにもかかわらず、無情にも第6波が襲いかかり、柳本小学校もその波に飲み込まれてしまいました。度重なる学級閉鎖や学校閉鎖に、皆さんの不安やストレスはいかばかりだったでしょう。

このように長らく続くコロナ禍で「つながりの大切さ」が叫ばれるようになりました。

「つながり」は自然に生まれるものではなく、一人一人がお互いのことを思い、少しずつの我慢や努力によって創り上げるものです。皆さんが紡ぎ上げた「つながり」を最も強く感じたのは、5年生の野外活動と6年生の運動会です。

野外活動では、励まし合ったり、支え合ったりしながら、誰一人決してあきらめることなく、龍王山を登り切りました。とてもしんどかったはずなのに、「大丈夫？もうちょっとやで。がんばろう。」と励ましの言葉を掛け合いながら、全員が登り切ることができたと聞きました。大変なことでも仲間とだからできる、「つながりの大切さ」を身をもって証明してくれたと思いました。

また黄金の三ヶ月といわれる6年生の秋には、大きな学校行事のひとつである運動会に挑んでいきました。今年度も感染症対策のための様々な制約があり、練習時間をとることもままならず、最高学年としてどのように運動会を作り上げ、下級生を引っ張っていくのか、不安や戸惑いでいっぱいだったと思います。

しかし、皆さんは、小学校最後の運動会で「多様性」を認め、個性を尊重することの大切さを訴える「ディス イズ ミー」（これが私よ）という曲を、全員で心をひとつにして踊りきってくれました。この曲は、「多様な個性を持つこのクラスだからこそ、一人一人を認め、大切にしてほしい。自信を持って自分らしく生きてほしい。」という思いで担任が選択したと聞いています。その思いを受け、皆さんは精一杯、自分の思いを表現し、応えてくれました。そのとき会場から湧き上がった大きな拍手は、皆さんが見せてくれた「つながりの強さ」に対して贈られたものだと思います。担任を含めた6年生の「つながりの深さ」がひしひしと伝わってきました。きっと将来、私はこの曲を耳にするたび、皆さんのことを思い出すことと思います。

柳本小学校に赴任して2年。コロナ禍で、今までどおりのことができずに、皆さんに申し訳ないという気持ちやこの決断でよかったのだろうかと思う心を持ちながら進んできました。

「ピンチはチャンス。今できることを考えよう」と言いながらも、何度も立ち止まってしまうようになりました。そんな時、最高学年として下級生に優しく接する姿や「これならやれる」と前向きに頑張る姿、地域のためにとボランティアを進んでかっけてくれた皆さんの前向きな行動、そして何より皆さんの明るい笑顔や挨拶に何度救われたかわかりません。本当にありがとう。

「こんなときなのに修学旅行に行かせてくれてありがとう。今まで当たり前だと思っていたことが決して当たり前ではないということ学びました。」という皆さんの感想の中に、皆さんの確かな成長を感じることができました。

コロナ禍において、六年生として、何ができるかを模索し、工夫してチャレンジし続けた皆さんの経験が、皆さんを大きく成長させたと信じています。

最後に皆さんにひとつの詩を紹介します。「あなたの幸せはここにある」という詩です。

幸福な人は、変わるものは変えようとします。変わらなかったものは静かに受け入れます。

幸福な人は、喜びを大きくして悲しみを忘れます。

幸福な人は【愛する】という言葉を最初に学びます

幸福な人は「ノー」と言える「ちょっとした勇気」を持っています

幸せな人は、幸せをつかむ努力をします

不幸な人は幸せに見える努力をします

幸せな人は、自分に必要なものは何かを知っています

幸せな人は、幸運を必ず生かします

幸せな人は、自分を信じて決断します

この詩には、これから進む新たなステージにおいて「幸せ」をつかむ8つのコツが示されています。特に後半の「幸せに見える努力でなく、幸せをつかむ努力をする」「自分に必要なものは何かを知る」「幸運を必ず生かす」「自分を信じて決断する」の4つを、

改めて卒業のはなむけの言葉としたいと思います。

最後になりましたが、保護者の皆様、大切に育まれたお子様が、今日の慶びの日を迎えられましたこと、誠におめでとうございます。

特に二年間にも及ぶコロナ禍において、お忙しい時間帯にも関わりませず、毎日の健康観察を続けていただき、子どもたちの健康と安全を守っていただいたことに心から感謝を申し上げます。二月には学校閉鎖、学級閉鎖が相次ぎましたが、今日、無事卒業式が開催できることに教職員一同うれしさと安堵の思いでいっぱいです。

これもひとえに保護者の皆様そして地域の皆様のご協力のたまものです。本当にありがとうございました。

コロナ禍において、一気にICT環境が進み、学校としてもなかなか追いつかない部分も多々ありました。十分なことができなかつたかもしれませんが、いつも温かいご理解とご協力をいただきましたことに、心より感謝を申し上げます。

今後、子どもたちは、中学校という新しい環境で、様々な困難に出会い、迷ったり、くじけそうになったりすることもあるかと思えます。どうぞこれまでどおり温かく子どもたちを見守り、励ましていただきたいと思います。

私たちも、たゆみなく成長し、前進していく子どもたちの後ろ姿をいつまでも見守ってまいります。

結びに卒業生三十七名の皆さんの前途に幸多かれとお祈りし、式辞といたします。